〈令和 3 年度北九州市小児保健研究会調査研究事業研究報告書〉

研究事業名；北九州市の乳幼児保健の現状を母子手帳から明らかにする

研究者；齋藤玲子、石井雅宏、福田智文、荒木俊介（産業医科大学　小児科）

【要旨】〈目的〉：北九州市の 4 か月、7 か月、1 歳半、3 歳健診の母子手帳のデータより、北九州市における育児に関する実態、経年的な変化を把握する。〈方法〉 2011 年 から 2020 年の間に北九州市で 4 か月健診、1 歳半健診、3 歳健診をうけた、延べ 235,785 名を対象とした。健診のアンケート項目のうち、育児に関する項目を抽出し入力し、解析を行った。〈結果〉育児について相談できる人がいる割合は、2011 年から 2016 年の間は 96-98%であったが、2017 年以降、90-93%と低下していた。また、2011 年から 2016 年までは、4 か月、1 歳半、3 歳健診ともに相談できる人がいる割合は 97-98%であったが、2017 年以降、4 か月健診で相談できる人がいる割合が減少していた。次に子育てに喜びを感じている割合は、2011 年から 2016 年までは、4 か月、1 歳半、3 歳健診ともに 98-99%であったが、2017 年以降は減少し平均 92-95%であった。特に 4 か月健診では 88%-95%と 1 歳半、3 歳に比べ低下傾向であった。育児のことで心配事があったのは 17-19%であり経年的な変化はなく、また各健診での差も認めなかった。育児をしていてイライラすることは 9-10%と経年的な変化はなかったが、年齢があがるとイライラする割合が高く、3 歳健診では 15-17%と 4 か月健診の 3-4%と比べ、約 3 倍多かった。何もやる気がおきないことは経年的に増加した。健康状態(気持ちや体の調子)がよいと感じているのは 2011 年から 2016 年まで 94-95 であったが、2017 年以降、88-91%と低下傾向であった。父親の育児参加は 2011 年から 2016 年までは 89-90%であったが、2017 年以降は 83-86%と低下傾向であった。〈考察・結論〉今回の研究により、2017 年以降、アンケート 4 項目(相談できる人がいる、子育てに喜びを感じる、養育者の健康状態がよいと感じている。父親の育児参加)で育児の負担が増える方に割合が増えていたことが明らかになった。一方で、育児での心配事、イライラすることがある、何もやる気が起こらないことがよくある、の 3 項目は変化を認めなかった。北九州市の児童虐待相談対応件数の報告では、2016 年以降増加しており、2021 年には 2015 年の 3.9 倍に増加しており、全体の 44.9%が乳幼児と報告されている。育児に対する周囲からの支援や養育者の心理的な負担が虐待につながっている可能性もある。2019 年以降は COVID-19 による影響をうけ、傾向の変化があることが想定されるが、今後も養育者に対する支援や心理的な負担を改善するための対応が必要であると考えられる。

【緒言】

核家族化の増加や親の就労形態の多様化に伴い、子育て家庭を取り巻く環境は大きく変化している。また地域のコミュニティの希薄化により地域で孤立し、養育者の不安や負担の深刻化に伴う、児童虐待の増加も報告されている。そこで今回、北九州市の母子手帳のアンケートの解析により、養育者の子育てに関する負担の経年的な変化を明らかにすることを目的とした。

【方法】

2011 年 1 月から 2020 年 12 月の間に北九州市で 4 か月健診、1 歳半健診、3 歳健診をうけた、延べ 235,785 名を対象とした。各年齢の健診表にある自記式調査票の項目より育児の支援および育児の負担に関する下記の 7 項目を抽出した。それぞれの項目について経年的な変化を検討した。

《アンケート項目》

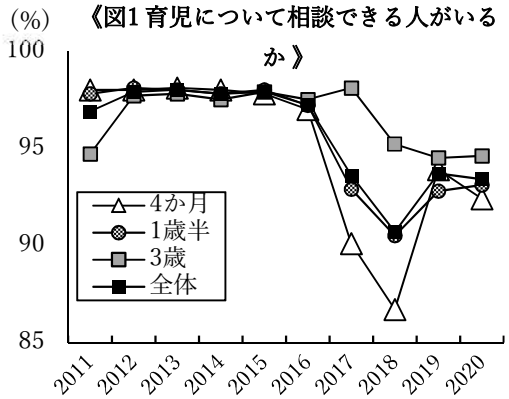
① 育児について気軽に相談できる人がいますか。
② 子育てに喜びを感じますか。
③ 育児のことで今まで心配なことはありましたか。
④ 育児をしていてイライラすることが多いですか。
⑤ 何もやる気が起こらないことがよくありますか。
⑥ あなたの健康状態（気持ちや体の調子）はよいですか
⑦ お父さんは育児をしていますか。

【結果】

4 か月健診 78,902 名、1 歳半健診 79,236 名、3 歳健診 77,647 名の計 235,785 名が今回の解析対象となった。

①育児について気軽に相談できる人がいますか。

育児について相談できる人がいる割合は、2011 年から 2016 年の間は 96.9-98.0%で推移したが、2017 年以降低下し、90.7-93.6%と低下を認めた(図 1)。また、2011 年から 2016 年までは、4 か月、1 歳半、3 歳健診と全ての群において相談できる人がいる割合は 97-98%と年齢差を認めなかったが、2017 年以降、特に 4 か月健診で相談できる人がいる割合が最も減少していた。

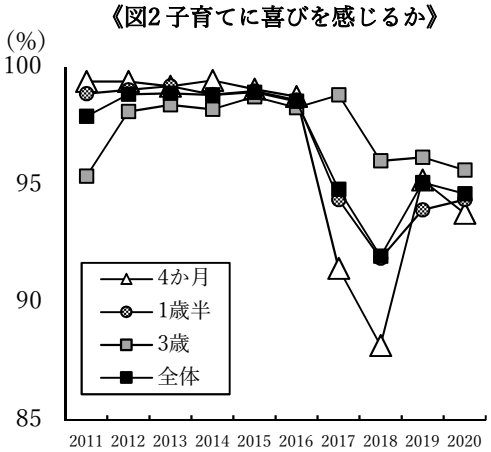


《図1 育児について相談できる人がいるか》

② 子育てに喜びを感じますか。

子育てに喜びを感じたのは、2011 年から 2016 年までは、4 か月、1 歳半、3 歳健診ともに 97.9-98.9%と高値であったが、2017 年以降は減少し平均 92-95.1%であった(図 2)。特に 3 歳健診では経年的に大きな変化を認めていないが、4 か月健診では 88.2%-95.2%と 1 歳半、3 歳に比べ低下していた。

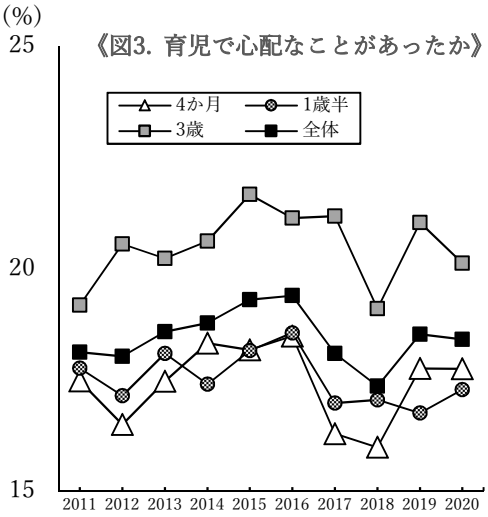
《図2 子育てに喜びを感じるか》



③ 育児のことで今まで心配なことはありましたか。

育児のことで心配事があったのは 17.4-19.4 %であり経年的な変化は認めなかった。また年齢別では、全ての年代で 4 か月が最も低く、3 歳が最も高かった(図 3)。

《図3. 育児で心配なことがあったか》



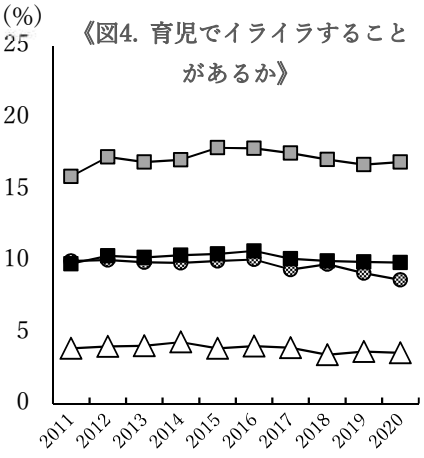
④ 育児をしていてイライラすることはありますか？

育児でイライラするのは 9-10%であり、経年的な変化は認めなかった。年齢別では 4 か月健診で 3.4-4%、1 歳半健診で 8.7-10%、3 歳健診で 15.9-17.9%と年齢が高くなるに従い高くなり、3 歳健診では 15-17%と 4 か月健診の約 3 倍多かった。

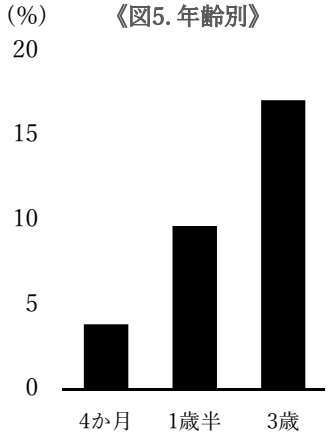
⑤ 何もやる気が起こらないことがよくありますか。

育児のことで心配事があったのは 17.4-19.4 %であり経年的な変化は認めなかった。また年齢別では、全ての年代で 4 か月が最も低く、3 歳が最も高かった(図 6)。

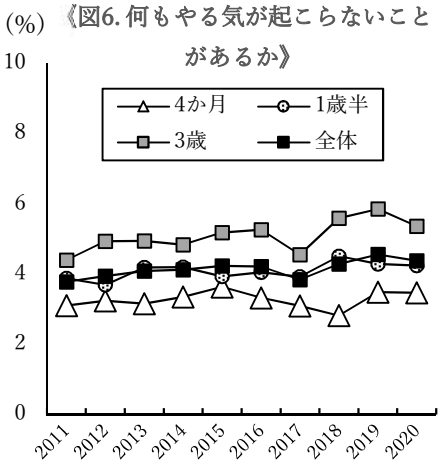
《図4. 育児でイライラすることがあるか》



《図5. 年齢別》



《図6. 何もやる気が起こらないことがあるか》

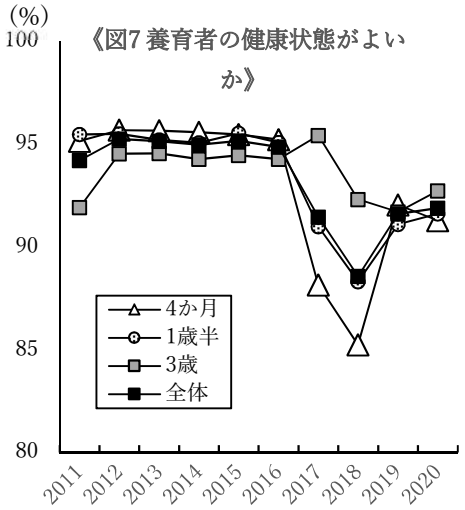


⑥ あなたの健康状態（気持ちや体の調子）はよいですか。

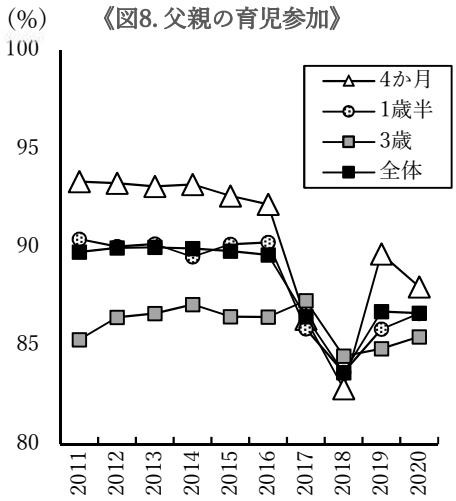
養育者の健康状態がよいと感じているのは、2011 年から 2016 年まで 94.2-95.3%であったが、2017 年以降、88.6-91.6%と低下傾向であった（図 7)。

⑦ お父さんは育児をしていますか。

父親の育児参加は 2011 年から 2016 年までは 89.8-90%であったが、2017 年以降は 83.6-86.5%と低下傾向であった。(図 8)。



《図7 養育者の健康状態がよいか》



《図8. 父親の育児参加》

【考察・結語】

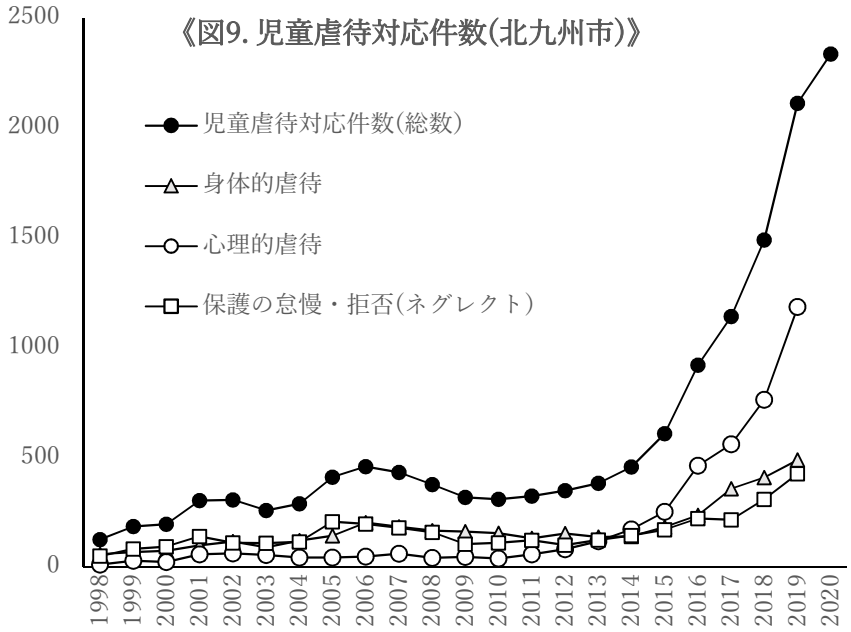
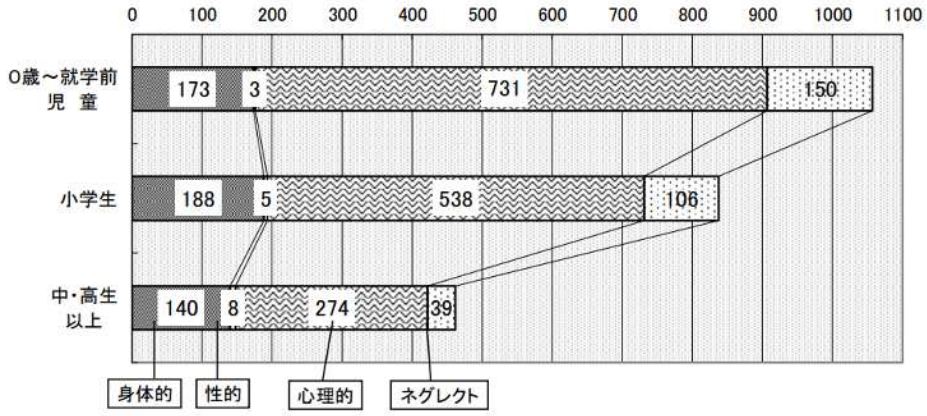
今回の研究により、各項目において、2011 年から 2016 年まで変化はみられなかったが、2017 年以降、①相談できる人がいる、②子育てに喜びを感じる、⑥養育者の健康状態がよいと感じている、⑦父親の育児参加と、4 項目で変化を認めた。一方で、③育児での心配事、④イライラすることがある、⑤何もやる気が起きないことがよくある、の 3 項目は経年的な変化を認めなかった。

現在、少子化や核家族化の進行、地域のつながりの希薄化など、社会環境が変化する中で、子育ての孤立化による負担や不安の増大が指摘されている。今回の検討では、項目の中で、①相談できる人がいる⑦父親の育児参加、と育児支援が減少していると感じている割合が増えているにもかかわらず、③④⑤の養育者の育児に対しての心理的な変化に関しては変化がなかった。しかし、②育児への喜びを感じる割合が減少し、⑥養育者の健康状態がよいと感じている割合も減っていることより、養育者が育児支援の減少に伴う負担により、本人が無自覚のまま抑うつ傾向を来たし、最終的に養育者のメンタルヘルスの問題が生じやすい要因になっている可能性がある。

北九州市の児童虐待相談対応件数の報告によると、児童虐待対応件数の総数は 2016 年以降急激に増加しており(図 9)、今回の検討でみられた 2017 年以降の育児支援の減少や心

理負担の増加の時期とほぼ一致する。尚、直近の報告では、年齢別の解析では、全体の44.9%が乳幼児と報告され、また心理的虐待が65.6%にのぼると報告されている。今回の検討にみられたように、育児に対する周囲からの支援や養育者の心理的な負担が、虐待の増加、特に心理的虐待につながっている可能性も否定はできないため、母子手帳のアンケート結果も念頭に、特に心理的に負担をかかえている養育者に関しては、一層の行政からの介入が重要であろう。

今回の検討において。2016年まで変化が見られず、2017年以降に急に変化がみられた理由ははっきりとはしなかった。北九州市では2017年に「北九州市子どもを虐待から守る条例」が施行されるなど種々の取り組みがされており、今後も社会状況に応じた柔軟な対策が必要であると考える。



《図 10、年齢別・相談種別対応件数鵜》